



中庭の白梅

(香里中学校・高等学校)

青桐と梅と福田さん（本校英語教諭）という三題漸めくがそうではない。その彼が、ある年の秋、（故黒崎良男先生とともに育てた）青桐十数本を植えました。丁度裏門あたりの空地です。青桐にとつて不運だったのは、枝分れせず真直に伸びることでした。旬日を出でずして木々は見ると無残、悪ガキどものチャンバラの道具と化しました。「どうするつもりや、アホ、バカ、マヌケ」と彼ら以上にガラの悪い担任は激怒したものであります。

「話合つて木を植えることにしました」。何日かしてからの彼らです。何でも父親の一人が、そういうことなら木の苗を寄付しようと云ったのだそうです。そのうち立派な

梅の苗木が着きました。「同じ植えるなら目立つ場所がええ。文句の出んうちにはよ植えてしまえ」と植えさせたものです。その尚志館（高校校舎）玄関下の円形石垣上には、日く因縁のある柿の老木がありました。第一グラウンドから移植したのですが、寄る年波には勝てず枯死、空地となっていました。そこは絶好の場所、陽光にも恵まれて順調に育ちました。早春見事に開花し、晩春数多くの実をもたらししています。掃除のオバサン達が結実を楽しみに待つておられました。

その悪ガキどもも立派な親父となっています。

今はもう二昔も前の話です。

中村 文雄
(香里中学校・高等学校元教諭)